



鮎の伝統漁法楽しむ

北川漁協「ちよんがけ大会」

延岡市北川町

延岡市の北川漁業協同組合(長瀬一己組合長)が主催する「鮎(アユ)ちよんがけ大会」が7日、同市北川町下塚の矢ヶ内川で行われ、県内外から訪れた約200人の家族連れなどでにぎわった。同漁協ではこの日のために100疋ほどに育っ

たアユ約340キを放流し、上流から女性、小学生以下、中学生以上の3区画に分けて会場を設営。ちよんがけを楽しんでもらった。ちよんがけは、さおの先に針を仕掛けて、アユの体に引っ掛けて捕る漁法。参加者は開始の合図とともに川へ

入り、50疋ほどの釣り糸と針の付いたさおを操りながらアユを狙った。女性のエリアでは、シノーケルを使った人も多く、水流の中で目を凝らしてアユを探していた。小学生以下のエリアでは、漁協組合員が水中を観察しな

がらアユのいる場所を教えたり、さおの先を誘導したりしながらアドバイス。中にはさおとの相性が悪く、素手で捕まえる「つわもの」姿もあった。3回目の参加という高校1年の岩切優依さん(同市土々呂町)は、開始1時間ほどで良型のアユを数匹ゲットして笑顔。「潜りながら、がむしゃらに掛けた。楽しいし、焼いて食べるのも楽しみ」と話した。



川遊びが大好きという中学2年の有村洋輝さん(同市北浦町)は、受付係をして運営を手助け。大会にも参加し、途中から素手で捕る方法に切り替え、次々と捕まえた。大人のエリアは流れが速くて難し



良型のアユを上げて笑顔



逃がさないように慎重に



目を凝らしながら魚影を探す参加者